



キム・ヨナを科学する

冬の一大イベントであった五輪のフィギュア・スケート。華やかな演技の中で「採点基準」も疑問となった。男女共に最も回転数の多いジャンプに挑戦したプルシェンコと浅田真央は2位に終わった。一方で、1回のジャンプの回転数を追及しなかったライサチェックとキム・ヨナは演技をまとめて優勝した。男子のプルシェンコは「4回転ジャンプを跳ばないなんて、時代に逆行」とコメントしたが、時代に逆行した選手の優勝は現代では象徴的と言える。

多くの選手が1度のジャンプの回転数を重視しない一因として、回転不足に対する採点基準が極めて厳しいことが挙げられよう。例えば、トリプル・アクセルがわずかでも回転不足と判断されると、ダブル・アクセルと見なされ、基礎点が8.2点から3.5点と半分以下に落ちる。加点もつきにくい。結果として、女子の場合トリプル・アクセルは極めて難度が高く、浅田真央以外は他の要素で勝負している。

フィギュア・スケートのスポーツ性を考慮すると、新たな記録を狙うヒーローは当然必要となる。従って、高回転ジャンプへの挑戦は適切に促進されなければならない。ルールの曖昧さはどのスポーツにも付き物であるとは言え、勝負をつまらなくするルールは改定が必要だろう。素人案では、①高回転ジャンプの得点アップ、②回転不足の角度差から減

点幅の調整、を思っていたが、後者については、来季から連盟が「中間点」導入を議論している。

一方で、金融はどうだろうか。数年前の金融機関は、高回転ジャンプを跳ぶスケーターのようにイノベーションを欲していた。CDOスクエアードは4回転ジャンプのレベルかもしれない。ただ、实体经济と乖離した高難度のプロダクトは「自己」だけでなく「他人」、即ち経済全体を傷つける刃となった。「他人」や「顧客」を傷つける商売は一般に長

続きが難しい。その結果、複雑な金融商品の開発を抑制する方向へ規制が強化されようとしている。これはスケートの採点ルールが高回転ジャンプへの志向を阻害しているのと似ていないだろうか。

金融はあくまで経済発展を促す黒子と解釈すると、新商品やスターは必須ではない。しかしながら、あま

りにも行き過ぎた規制は、自己責任の範囲内の正当な競争すらも阻害する。結果として、金融は公的セクターに近い扱いとなり、より良いイノベーションも生まれにくい。フィギュア・スケートの現行ルールがスポーツとしてのより高い技術の発展を阻害しかねないルールということで批判を受けるのと同様に、金融取引を規制するルールがどこまで健全な経済発展を促すために有効なものか、感情論に流されない判断が重要となる。（加藤 友明）

